

## 私のガイド登山

「登山教室 山遊倶楽部」を立ち上げ、山岳ガイドを始めて10年が過ぎました。それ以前は忙しいサラリーマンをしながら、休日には山岳会での活動や知人に声をかけられ、登山のガイドやインストラクターとして、多くの山登りのお手伝いをしてきました。運良く山岳ガイドの資格を得て、サラリーマンを辞め、山岳ガイドとなってからは自分で企画立案をし、資料を作り、登山雑誌に募集広告を掲載し、またホームページもこつこつと作りながら、ガイディングに明け暮れ、今日までに述べ数千人のお客様を、海外も含めて全国の山々に案内することが出来ました。

たくさんのドラマがありました。全くガイド無用といえるほど恵まれた天気の中での「楽チン登山」から、「モーイヤ!!」というほどの猛吹雪の中での彷徨。あるときは全くこのルートに登るには程遠いと思われるレベルのお客さんの、死ぬほど辛い(であろう)サポート。お客さんをほとんどザイルで引っ張り上げたクライミングなどなど。

しかし、全ての登山に目標達成、あるいは頂上に達した時のみなさんの顔には笑みがあふれ、あるときは頂上で涙を流していた人。いきなり握手を求めてきた人。大きな声で「バンザイ」を叫んでいた人。頂上の祠に手を合わせ、いきなり1000円札の“お賽銭”を置いて私をビックリさせた人、危険地帯から解放され皆さんとザイルを解いた瞬間、生きかえたような顔をしていた人。

こんな時、私はガイドとしての職業に「最高の喜び」を感じます。自分の登山経験がみなさん方より少し豊富なことで、危険防止の予防策をとり、安全のためにほんのチョットしたお手伝いをしているだけなのです。

登ってみたい山(目標)があっても、今の自分のレベルで行くにはチョット不安、もう少しレベルを上げたい、より安全快適に目標を達成したい。このような思いで参加される方がほとんどですから、私のガイディングにも、より力が入り、たえずお客さんの動きにも神経が集中出来ます。

そのためか、あるいは年のせいかな?小屋に入り1日が終わった時、途端に疲れのためか良く眠れます。

昔、私も趣味で登っていたときは「怪我と弁当は自分持ち」で、危険なところほど「被害最小限」の考え方からアンザイレンなどはしたことも無く、皆それぞれがかって気ままに行動しました。

10代後半から、厳冬期のアルプス、日本三大岩壁の登攀、ヨーロッパアルプスの6級ルートへの挑戦などに明け暮れ、今、私のモットーである「安全第一」とは程遠く、転、滑落、道迷い、猛吹雪での遭難直前、雪崩れの埋没など、五回もの骨折や入院などを繰り返す日々が続き、山で失った友人も20人を数えながらも私は「運良く」生きてきました。度重なるミスを繰り返しながら、今いる私は「本当に運が良かった」だけなのです。

今、私は思います。「自然は怖い、だから絶対にミスを犯してはいけない。絶対に遭難してはいけない」

せっかく私は「運」に助けられてきたのですから。

ある時を境に「絶対にミスをしない」ための厳しい訓練と、経験、知識を身に付けてきたつもりです。

若いころの自分と今の自分が、大きく変わったことを実感しています。

これからも、「安全第一」「目標達成」「快適登山」のサポートを通して、みなさん達の笑みを自身の喜びにしていきたいと思っています。